本読みの起点

情報工学科4年 高木 徹

「本をよく読みなさい」

そういう風に親から言われた覚えのある人は、どれほどいるだろうか。おそらく、ほとんどの人が一度は言われた言葉だろう。斯く言う私もその一人だ。

この場合の本と言うのは小説など、とにかく字だけがずらずらと並んでいるものを指している。小説嫌いな人にとっては苦痛でしかない事だろうが、拒否反応を示す前にまず考えてもらいたい。自分は一体、何故小説が嫌いなのか、と言う事を。

例えば、字が多い。例えば、追いかけていくのが面倒である。分厚くて読む気が無くなる……ほかにも読書までには、色々なハードルがあるだろうと思う。それは人それぞれだ。

しかしそんな人でも、漫画はよく読むのではないだろうか？

最近の漫画は複雑な設定や練り込まれたシナリオ、キャラの描き出しもあり、文章が増えている。絵だけではとても描ききれない、細やかな部分が確実に存在している。そんな新世代の漫画は、本嫌いな人が本を読むための入門書にはぴったりだと思うのだ。漫画が読める人なら、もう小説を読む十分な基礎力があるはずである。

漫画は良くて、小説みたいな本は駄目。そう思っている人は、図書館や本屋に出かけて、いつもは出向かなかった小説などのコーナーを歩いてみてほしい。並んでいる本を、歩くままの速度で眺め見ていく。ずいぶん数は多い。その全部を見ていく必要はない。流し見ていく、その態勢で自然に歩き見ていけばいい。

その中にいくつか、思わず足を止めるか、歩みを緩めてしまうような本がきっとあるはずだ。タイトルが目を惹いた。表紙になんとかつられて……理由は本の中身に関係してなくても構わない。踏み出すきっかけこそが、そのとき一番重要なのだ。

あとは読んでいく内に、漫画を読むときと同じで、自然に続きを気にしてしまう自分がいる事だろう。そうなってしまえば、もうゴールは目前。あとは駆け込むように読み進め、あっさり一冊読みきることができてしまう。

小説だから、なんて幻の言葉に惑わされる必要は一つもない。苦手意識を取り外してしまえば、漫画と変わらない、ただの本があるだけだ。

これを機に、ひとつ読書に挑戦してみてはいかがだろうか？